

・・・ 編 集 後 記 ・・・

最近の教育学会学術大会の傾向

今年8月18日～20日に松本市で開催される日本臨床検査学教育学会学術大会は、第10回目を迎える記念すべき大会であり、我々会員にとっては誠に喜ばしいことです。第1回学術大会は平成18年8月に東京医科歯科大学において三村邦裕前理事長(現千葉科学大学教授)が大会長となり開催されました。全く最初の試みとして運営が滞ることなく進むかどうか、役員の一員として、かたずを呑んで見守っていたことが思い出されます。参加者数も総勢347名でスタートしました。その翌年は香川県で加藤亮二教授(当時、香川県立保健医療大学、現純真学園大学)が大会長となり、332名の参加者を得て同じく成功裏に実施されました。今年度は東京の開催地としては3回目になりますが山藤賢校長(昭和医療技術専門学校)が大会長となり第9回大会が開催されました。その間、九州、弘前、新潟、名古屋、大阪大会と順調に続きました。どの大会も素晴らしい成果を上げました。特に、この第9回大会は参加者は

814名までに増加し、まさに隆盛を極めた感があります。学部生や大学院生の参加も次第に増加し、今回は学生参加が全体の半数を超え431名となりました。それに伴い学生発表も増えてリサーチマインドの育成やデモンストレーション能力の習得には絶好の機会となりました。また、学生発表に関する評価制度は第8回大会から導入されました。この素晴らしいアイデアの提案者は、大会長を務めた岩谷教授(大阪大学)でした。

回数を重ねるごとに、内容のレベルが高くなって、評価システムが定着したことなどの良いことづくめかという、残念ながらそうとばかりは言えないことが明らかになってきました。それは教員の発表で時間を守らない例が多数見受けられ、他の参加者からヒンシュクをかってしまった事です。この点に関しては、むしろ学生発表に分があると言わざるをえません。指導教員は自ら範を示す時期であることをご理解いただき、是非とも大会運営にご協力をお願いいたします。

(平成27年1月31日 編集委員 今井 正)

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部

編集委員会(平成25・26年度)

委員長:奥宮敏可(熊本大学)、副委員長:渡邊幹夫(大阪大学)、委員:石橋佳朋(東武医学技術専門学校)、
今井 正(香川県立保健医療大学)、高岡榮二(高知学園短期大学)、山内一由(筑波大学)

臨床検査学教育 第7巻 第1号

平成27年3月1日 発行

発行人:一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
理事長 戸塚 実

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
生体検査学専攻内

Tel. 080-8914-3214

e-mail: jimukyoku@nitirinkyo.jp

http://www.nitirinkyo.jp

編集:日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail: edit@jamte.org

制作:(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船 3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770

広告取扱社:(株)日本廣業社

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-11

Tel. 03-3238-7501